

「喫煙で火災」艦長更迭

——原子力空母G・ワシントン——

米海軍、規律違反で問責

地(神奈川県横須賀市)へ配備予定の原子力空母ジョージ・ワシントンで五月に起きた火災の監督責任を問い、デービッド・ダイコフ艦長(大佐)を「指揮能力への信頼を失った」として更迭した。

出火原因については、規則に反した喫煙により、不適切に置かれた可燃性物質に引火したとみられると発表、火災は「避けられた人間の行為の結果」と断定した。

艦長更迭で一定のけじめをつけた形だが、綱紀の乱れが火災を招いたことが明白となり、配備を控える地元的不安がさらに高まりそつだ。

海軍はドーバー副艦長(大佐)も更迭。後

任艦長に太平洋軍司令部のヘーリー副参謀長(同)を充てた。ヘーリー氏は二〇〇五年六月から今年一月まで原子力空母セオドア・ルーズベルトの艦長を務めた。

火災は五月二十二日(現地時間)、南米沖の太平洋上で発生。海軍によると、火元は船尾の補助ボイラー付近で、九十㊩(約三百四十㊩)の潤滑油が不適切に置かれていたことなどから火勢が強まった。

鎮火までに約半日かかり、消火作業で三十七人が負傷。約三千八百ある区画のうち、約八十区画が損傷し、損害額は七千万ドル(約七十五億円)に上る。当初、日本の外務省などは「(米側から)ぼや」と聞いている」と説明

していたが、激しい火災だったことがあらためて明らかになり、日本政府の情報収集能力も問われそつだ。

【ロサンゼルス30日共同】砂田浩孝】米海軍は三十日、横須賀基

8. 1